

Ⅲ型エルゴード変換の正規化群と、エルゴード的流れの
中心化群

九大 教養 渡地敏弘

Ⅲ型の ergodic automorphism T に対して、ある automorphisms の ergodic flow $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ (associated flow) が定まり [6][10], T の弱同値類と $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ の同型類とが 1 対 1, onto, に対応する [10] ことが知られている。ところで $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ の同型不変的諸性質がどのように T に反映しているだろうか。

(1) $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ の point spectrum $Sp(F_x)$ と、 T の \mathbb{T} -set, $\mathbb{T}(T)$, は一致する [6]。

(2) もし $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ が finite measure preserving ならば T の flip $\sigma: \Omega \times \Omega \ni (\omega, \omega') \rightarrow (\omega', \omega)$ は直積変換群 $\{T^n: n \in \mathbb{Z}\} \times \{T^n: n \in \mathbb{Z}\}$ の full group の closure に属する [8]。adding machine automorphism の flip は full group の closure に属するが、ある σ -finite measure preserving flow $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ で、それを associated flow に持つ T の flip が full group の closure に属さない、従って T が

adding machine automorphism τ の例が知られている
(Connes-Woods [3]).

(3) $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ を finite measure preserving flow τ ,
constant ceiling function と base automorphism U τ による
Ambrose flow とする。 T を, $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ を associated
flow にもつ II 型の ergodic automorphism とする。この
時 T が adding machine automorphism τ があることと,
 U が次の条件をみたすこととが同値になる: μ を U -不変
確率測度とする。 $\forall \varepsilon > 0$ と, μ に関して絶対連続な勝手
の n 個の確率測度 μ_1, \dots, μ_n に対し, ある確率測度 ν
 $\ll \mu$ が存在し,

$$\mu_j \in CO(\nu(T^i)) : i \in \mathbb{Z}$$

をみたす。ここで右辺は $\nu(T^i), i \in \mathbb{Z}$, の convex hull, ε -近
似は norm 位相による (Connes [4])

(4) (3) の前半の仮定の下で, もし U が正のエンタルピー
を持つば, T は adding machine automorphism τ による (Connes-
Woods [5])。 (2) よりこの時の flip は full group の
closure に属する。

ざっと以上のことが合っている。さてこの報告では,
 $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ の中心化群を見ることで T の諸性質をとりえ、そ
して種々のエルゴード変換の中心化群を調べる。 証明は

[8] と、近々出た論文 [9] に譲る。

(I) 正規化群 $\mathcal{N}[T]$ と、中心化群 $\mathcal{C}((F_x)_{x \in \mathbb{R}})$ 。

(Ω, \mathcal{B}, P) 上の automorphisms の全体に弱位相:

$$T_\alpha \rightarrow T \text{ iff } \forall f \in L^1(P) \text{ に対し } \int (T_\alpha^{-1} w) \frac{dP_{T_\alpha^{-1}}}{dP}(w) \rightarrow \int (T^{-1} w) \frac{dP_T}{dP}(w) \quad (L^1\text{-norm}),$$

を入れると、これは complete separable metrizable group になる。

ergodic automorphism T に対し、 $\{T^n R w; n \in \mathbb{Z}\} = \{R T^n w; n \in \mathbb{Z}\}$ a.e. w を満たす automorphisms R の全体を T の normalizer group と呼び $\mathcal{N}[T]$ で表わす。特にその部分群で $R w \in \{T^n w; n \in \mathbb{Z}\}$ a.e. w を満たす R の全体を full group と呼び $[T]$ で表わす。 $\mathcal{N}[T]$ の中に次の位相を導入する: $R_\alpha \rightarrow R$ in $\mathcal{N}[T]$ iff (i) $R_\alpha \rightarrow R$ (弱収束) (ii) $\forall g \in [T]$ に対し、 $P(w; R_\alpha g R_\alpha^{-1} w \neq R g R^{-1} w) \rightarrow 0$ 。

$\mathcal{N}[T]$ は、この位相の下で complete ^{separable} metrizable group になる。

automorphisms の ergodic flow $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ に対し、

$R F_x = F_x R, \forall x \in \mathbb{R}$, を満たす automorphisms の全体

を centralizer $\mathcal{C}((F_x)_{x \in \mathbb{R}})$ という。これは弱位相の下で

complete separable metrizable group になる。

もし ergodic automorphism T が II_1 型ならば $\mathcal{N}[T] = [T]$,

T が II_∞ 型 であるならば $\mathcal{N}[T]/[T]$ は \mathbb{R} と位相同型 である [7]。

所で Connes-Takesaki [2] は M が III 型 hyperfinite factor ならば, $(F_t)_{t \in \mathbb{R}}$ を \mathbb{R} の flow of weights とする。 $\text{Aut}(M)$ から $C((F_t)_{t \in \mathbb{R}})$ への continuous into homomorphism (fundamental homomorphism) が存在し, その kernel は $\overline{\text{Int}(M)}$ に含まれることを示した。 Connes は [1] で, その kernel が $\overline{\text{Int}(M)}$ に一致することを主張した。 実際, 次の定理が示すように fundamental homomorphism は onto である。

定理 1. T を III 型の ergodic automorphism とし, $(F_t)_{t \in \mathbb{R}}$ を T の associated flow とする。 α を \mathbb{R} の位相群 $\mathcal{N}[T]/[T]$ と $C((F_t)_{t \in \mathbb{R}})$ とは位相同型である。

(II) 中心化群 $C((F_t)_{t \in \mathbb{R}})$ がコンパクト群になることの特長づけ。

ergodic finite measure preserving flow $(F_t)_{t \in \mathbb{R}}$ が pure point spectrum を持つというのは, $(F_t)_{t \in \mathbb{R}}$ の固有関数族が存在し, L^2 -空間の完備直交基底になることである。

定理 2 $(F_t)_{t \in \mathbb{R}}$ を automorphisms の ergodic flow とする。 α を \mathbb{R} の位相群 $C((F_t)_{t \in \mathbb{R}})$ が compact group になるための必要十分条件は, $(F_t)_{t \in \mathbb{R}}$ が finite measure preserving

4

ii pure point spectrum を持つ μ は μ である。この時 $C(F_x)$ ($x \in \mathbb{R}$) は $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ のヒルベルト空間 $S_p(F_x)$ の character group と同型であり、自動的に可換群となる。

系 T を \mathbb{R} 型 ergodic automorphism とする。 $N[T]/[T]$ が compact group となるための必要十分条件は、 T の associated flow $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$ が finite measure preserving であり、 pure point spectrum を持つ μ である。この時、 $N[T]/[T]$ は T -set, $T(T)$, の character group と同型となる。特に、 $N[T]/[T]$ が 1 次元トーラスと同型となることは、 T が \mathbb{R} 型 $(0 < \lambda < 1)$ であることは同値となる。

(III) 中心化群 $C(F)$.

(III-1) Bernoulli-shift の中心化群について。

ergodic automorphism F の中心化群を考える。 $C(F)$ の各元 U に対して、 F のヒルベルト空間集合 $S_p(F)$ の character group の元 χ_U が定まり、

$$f_n(Ux) = \langle \chi_U, \nu \rangle f_n(x) \quad \nu \in S_p(F)$$

をみたす。ここで $f_n(x)$ は F の固有値 ν に対する固有関数である。

もし $U \in C(F)$ が ergodic ならば map $\chi_U : S_p(F) \rightarrow \langle \chi_U, \nu \rangle \in S_p(U)$ は $S_p(F)$ と $S_p(U)$ の同型対応を
5

とある。従って、もし F が measure preserving τ -weak mixing ならば F は可換な ergodic automorphism は weak mixing にならない。

F が measure preserving τ -weak mixing の時、つまり $F \times F$ が ergodic の時、 $C(F \times F)$ は 非可換群である。

というのは、flip $(x, y) \rightarrow (y, x)$ と、 $(x, y) \rightarrow (Fx, y)$ は共に $C(F \times F)$ の元だが、両者は可換でない。Bernoulli shift は ある $F \times F$ と同型だから、 τ の中心化群は非可換になる。

$$\{F^n; n \in \mathbb{Z}\} \subset \overline{\{F^n; n \in \mathbb{Z}\}} \subset CC(F) \subset C(F)$$

が成り立つ。つまり $C(F)$ は $C(F)$ の中心化群。もし F が strong mixing かつ finite measure preserving automorphism ならば $\{F^n; n \in \mathbb{Z}\}$ は closed である。

Bernoulli shift F の中心化群 $C(F)$ について、 τ の他知は次の通りと考察すると。

- $CC(F) = \{F^n; n \in \mathbb{Z}\}$ (Rudolph [12])
- F は ある Bernoulli flow $(F_x)_{x \in \mathbb{R}}$, $F_1 = F$, に埋めこめるので $C(F)$ は ある Bernoulli を含む。
- あるエントロピー-零の weak mixing automorphism が $C(F)$ に含まれる (Rudolph [12])。
- ある weak mixing automorphism は $C(F)$ に含まれない

1) (Ornstein [11])

(IV-2) adding machine automorphism の中心化群.

$(r_n)_{n \geq 1}$ を 2 以上の整数列, X を $\{0, 1, \dots, r_n - 1\}$ $n \geq 1$ の無限直積空間とする. X は, その元 $(x_n)_{n \geq 1}$ と $(y_n)_{n \geq 1}$ の和を右へ繰り上がりをもつ座標毎のたし算で与える: とにより compact abelian group になる. μ_n を $\{0, 1, \dots, r_n - 1\}$ の probability measure (相. $\mu_n(i) > 0$). とし, μ を無限直積測度 $\prod_{n=1}^{\infty} \mu_n$ とする. 条件 $\sum_{n=1}^{\infty} 1 - \mu_n(r_n - 1) = \infty$, $\sum_{n=1}^{\infty} 1 - \mu_n(0) = \infty$ の下で X の rotation T ;

$$T(x_n)_{n \geq 1} = (x_n)_{n \geq 1} + (1, 0, 0, \dots)$$

は ergodic automorphism になる. μ の T を adding machine automorphism とする.

命題 T を上記 adding machine automorphism とする.

$C(T)$ は群 X の部分群と代数的に同型になる.

定理 3 $\mu = \prod_{n=1}^{\infty} \mu_n$ を $X = \prod_{n=1}^{\infty} \{0, 1\}$ 上の無限直積測度で $\mu_n(0) = p$ $0 < p < 1$, $\mu_n(1) = 1 - p$ とする. T を adding machine automorphism とする. $C(T)$ は, $\in \mathbb{Z}$ $p \neq \frac{1}{2}$ ならば \mathbb{Z} と同型になり, $\in \mathbb{Z}$ $p = \frac{1}{2}$ ならば X と同型になる.

ergodic automorphism F は $C(F)$ が \mathbb{Z} と同型になる
他の例は Ornstein [11] にある。

adding machine automorphism と base automorphism による
constant ceiling function の Ambrose flow と associated
flow によって III 型 ergodic automorphism はある adding
machine automorphism である [7]。これは定理 1.3 より
なり

系 III 型の adding machine automorphism T は、
 $N[T]/[T]$ が \mathbb{R} と同型になる例がある。

注 III 型 adding machine automorphism T は、 $N[T]/[T]$
が非可換群になる例が分かっている。これについては、
初めに述べた (3) の条件の下では、 $C((F_x)_{x \in \mathbb{R}})$ は可換に
なるだろうと予想されている。

文献

1. A. Connes; On the classification of von Neumann algebras and their
automorphisms, *Symposia Mathematica* 20 (1975), 435-478
2. A. Connes and M. Takesaki; The flow of weights of factors of type III,
Tohoku Math. J., 29 (1977), 473-575.
3. A. Connes and J. Woods; A construction of approximately finite dimensional
non-ITPFI factors, *Canad. Math. Bull.* 23 (1980), 227-229.

4. A. Connes : 未発表.
5. A. Connes and J. Woods : 未発表.
6. T. Hamachi, Y. Oka and M. Osikawa : Flows associated with ergodic non-singular transformation groups, *Publ. RIMS, Kyoto Univ.* 11 (1975), 31-50.
7. T. Hamachi and M. Osikawa : Ergodic groups of automorphisms and Krieger's theorems (preprint).
8. T. Hamachi and M. Osikawa : Fundamental homomorphism of normalizer group of ergodic transformations, *Lecture notes in Math.* Springer Verlag, 729 (1978), 43-57.
9. T. Hamachi : The normalizer group of an ergodic automorphism of type III and the commutant of an ergodic flow. (To appear).
10. W. Krieger : On ergodic flows and isomorphism of factors, *Math. Ann.* 223 (1976), 19-70.
11. D. Ornstein : On the root problem in ergodic theory, *Proc. of Sixth Berkeley Symposium on Mathematical Statistics and Probability*, Berkeley and Los Angeles, (University of California Press) 8 (1972), 347-356
12. D. Rudolph : The second centralizer of a Bernoulli shift is just its powers, *Israel J. Math.* 29 (1978), 167-172